

2023年2月27日

各 位

ENEOSホールディングス株式会社
ENEOS株式会社

組織の改正について

ENEOSホールディングス株式会社・ENEOS株式会社（社長：齊藤 猛）は、2023年4月1日付（廃止は2023年3月31日限り）で、下記のとおり組織の一部を改正しますので、お知らせいたします。

記

1. ENEOSホールディングス株式会社・ENEOS株式会社の合同部

（1）設置

「戦略投資部」

現在、経営企画部M&Aサポートグループが担う出資を伴う投資案件に関する各部へのサポート業務に加え、コーポレートとして立案するまたは社長の指定がある出資を伴う投資案件の実行を担う組織を設置するものです。

2. ENEOS株式会社

（1）廃止

①「需給部」

供給部門の組織体制見直しによるものです。

②「新規事業デザイン部」

プラットフォーム事業部の設置に伴い、業務および組織を移管するものです。

③「FCサポート室」

当社製SOFC※¹型家庭用燃料電池「エネファーム（Type S）」は、2022年度末までに95%の機器が10年保証満了を迎えることから、アフターフォロー業務の減少が見込まれるため、2022年度末をもって室を廃止しグループ化するものです。

④「リソース&パワーカンパニー 再生可能エネルギー事業部」

当社グループの再生可能エネルギー事業をジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社へ統合※²することによって、互いが持つ資産および開発力をフル活用し、再生可能エネルギー事業の成長、早期収益化を加速させるものです。

⑤「機能材カンパニー 高機能モノマー事業部」

新規事業開拓業務の縮小に伴う組織体制見直しによって、業務の最適化・適正化を図るものです。

⑥「関東第3支店」および「大阪第2支店」
販売部門の組織体制見直しによるものです。

(2) 設置

①「バイオ燃料部」

S A F^{※3}供給体制の確立に集中して取り組む組織を設置するものです。

②「プラットフォーム事業部」

デジタル技術も活用した新ビジネスモデルの開発・展開を加速するとともに、全社のエネルギープラットフォーム事業を総括・推進する組織を設置するものです。

③「V P P事業部」

各部に分散している電力需給調整関連ビジネスの検討を一元化し、事業の企画・実行を加速するために設置するものです。

(3) 名称変更

①海外事業企画部 →「海外事業開発部」

総代表拠点とともにM&A等を活用した新規事業開発を推進する組織を目指すにあたり、名称を変更するものです。

②原油外航部 →「原油・製品トレーディング部」

供給部門の組織体制見直しによるものです。

③物流管理部 →「物流部」

供給部門の組織体制見直しによるものです。

④機能材カンパニー 高機能ポリマー事業部 →「機能材カンパニー 高機能素材事業部」

新規事業開拓業務の縮小に伴う組織体制見直しによって、業務の最適化・適正化を図るものです。

⑤大阪第1支店 →「関西支店」

販売部門の組織体制見直しによるものです。

※1 S O F C : 固体酸化物形燃料電池 (Solid Oxide Fuel Cell)

※2 2023年1月16日発表「[再生可能エネルギー事業統合について](#)」

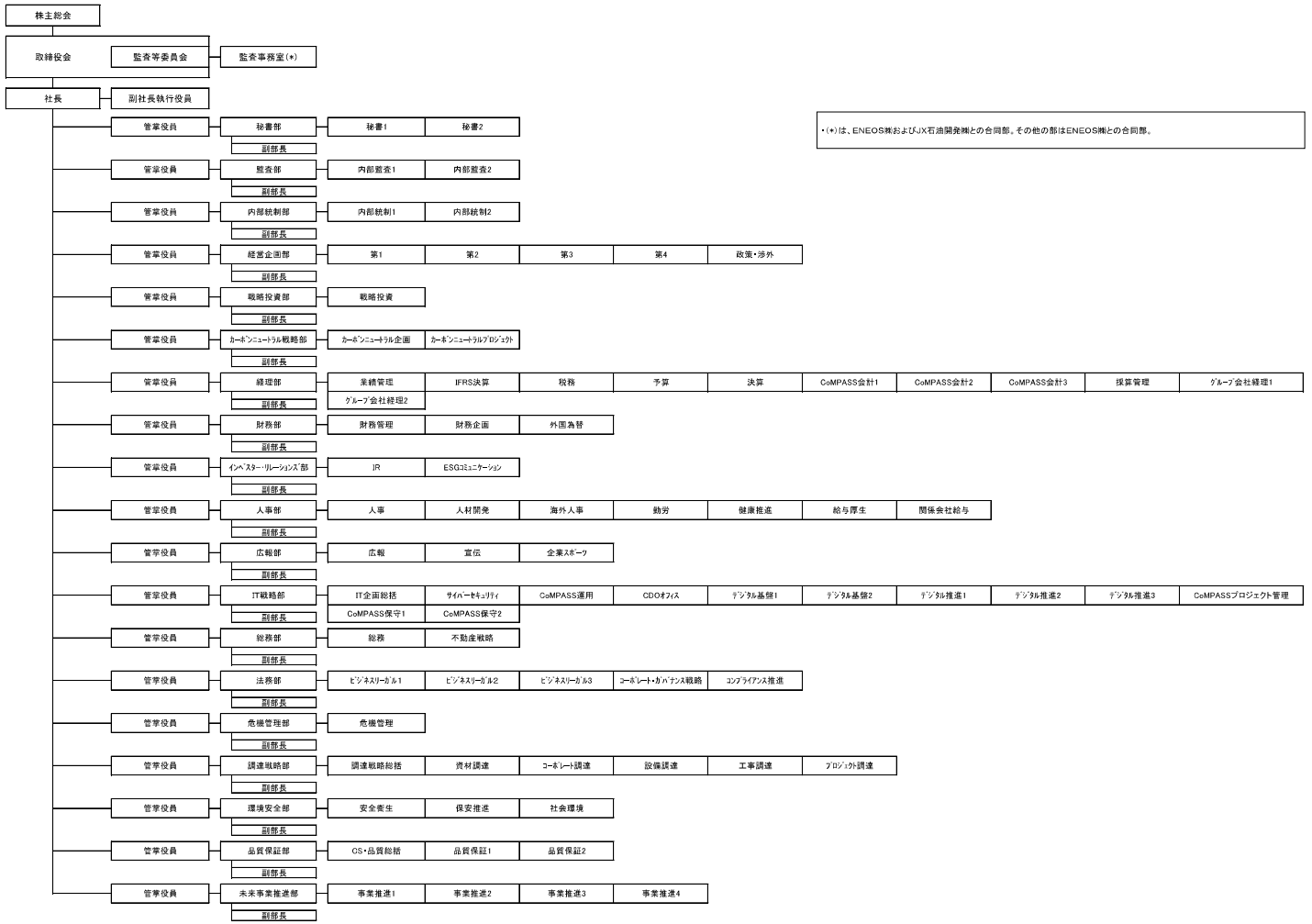
※3 S A F : 持続可能な航空燃料 (Sustainable Aviation Fuel)

以 上

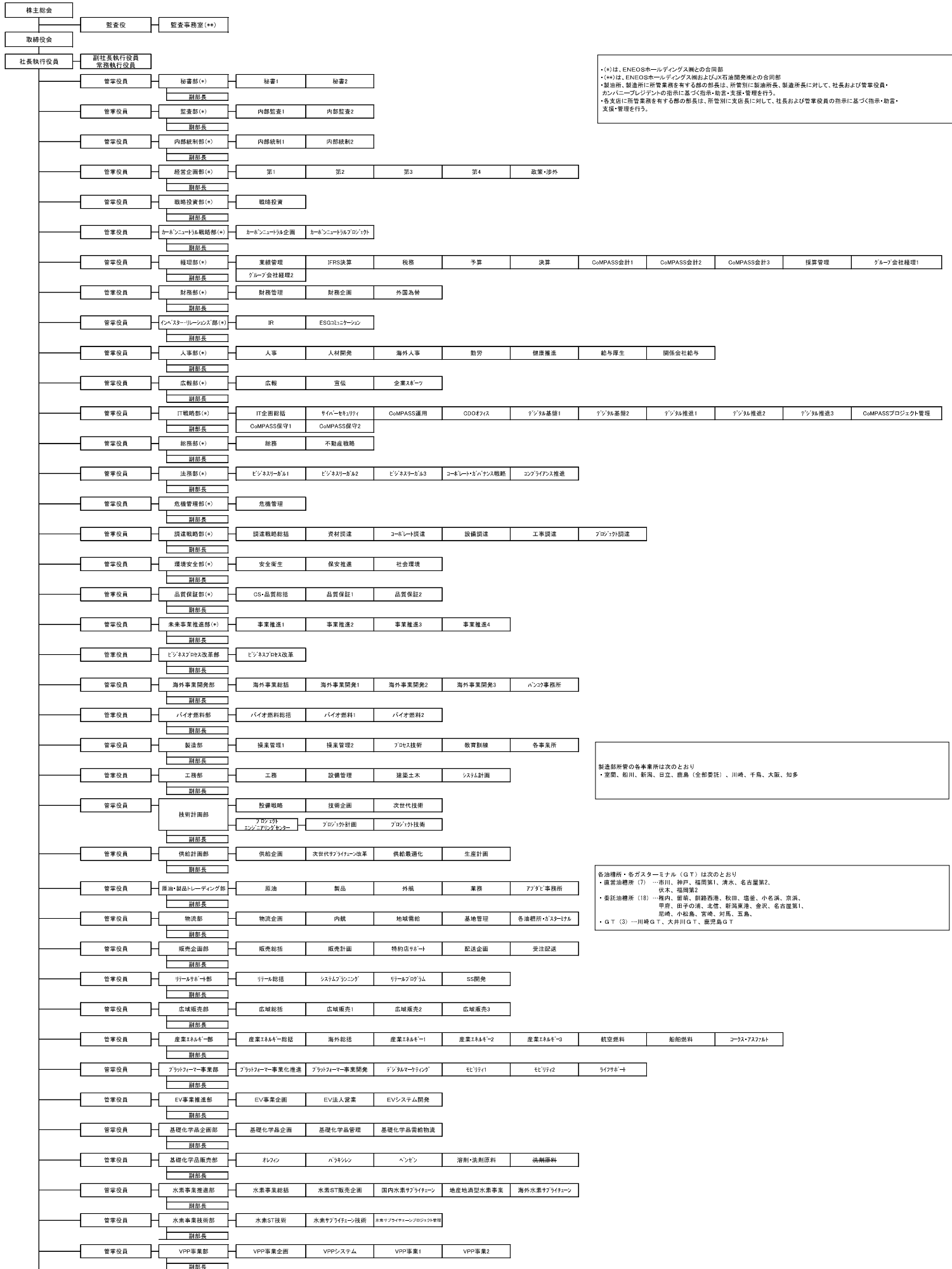
<参考資料①> ENEOSホールディングス株式会社 組織図 (2023年4月1日付)

<参考資料②> ENEOS株式会社 組織図 (2023年4月1日付)

<参考資料①>ENEOSホールディングス株式会社 組織図(2023年4月1日)

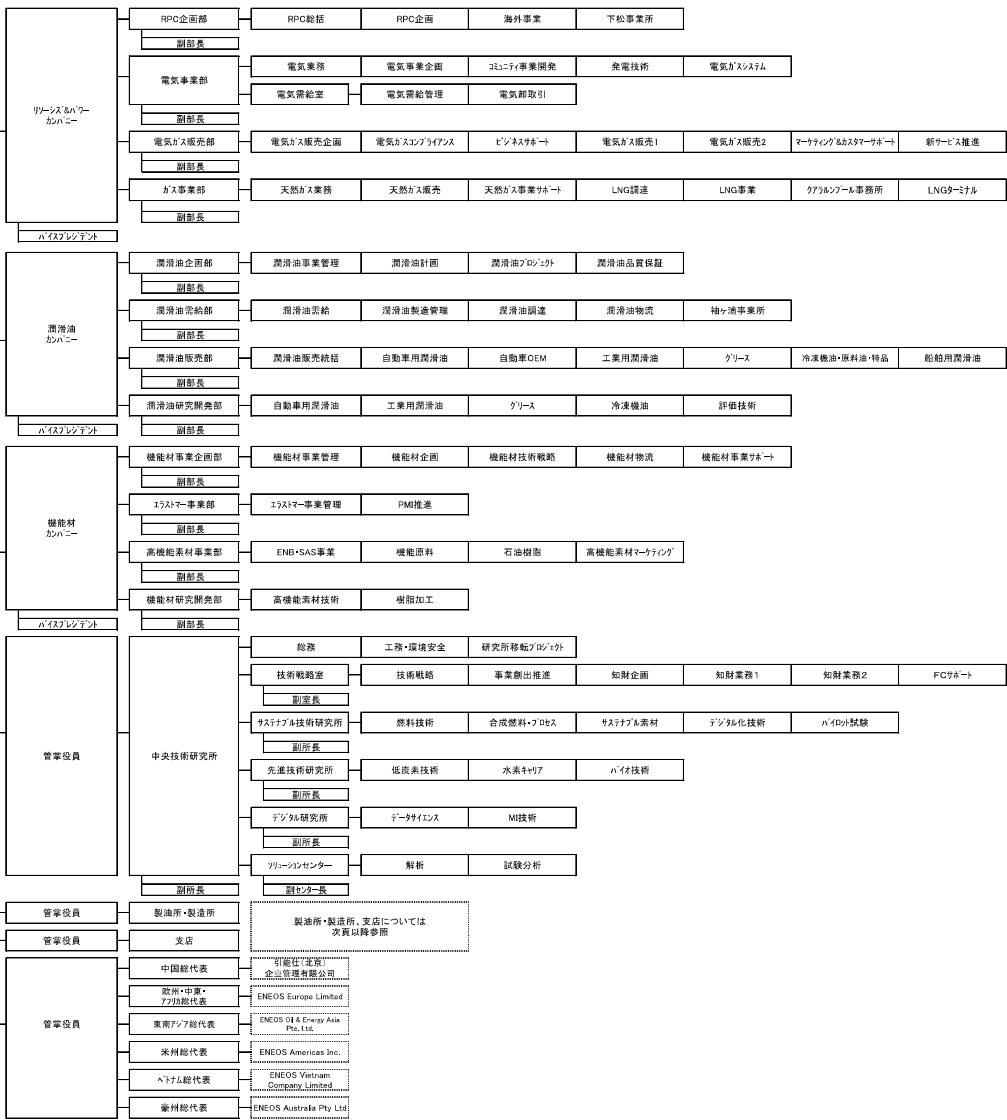


<参考資料②>ENEOS株式会社 組織図(2023年4月1日)



製造部所管の各事業所は次のとおり
 ・室蘭、船川、新潟、日立、鹿島(全部委託)、川崎、千鳥、大阪、知多

各油槽所・各ガスターミナル(GT)は次のとおり
 ・直営油槽所(7) ……前川、神戸、福岡第1、清水、名古屋第2、伏木、福岡第2
 ・委託油槽所(18) ……稚内、留萌、釧路西港、秋田、塩釜、小名浜、京浜、甲府、田子の浦、北管、新潟東港、金沢、名古屋第1、沼崎、小松島、宮崎、別府、五島
 ・GT(3) ……川崎GT、大井川GT、鹿島GT



ガス事業部所管のLNGターミナルは次のとおり
・八戸（全部委託）、網走（全部委託）

製造所・製造所、支店については
次頁以降参照

